

合同セミナー報告



国際ロータリー第2790地区

2005—06年度

会長・情報委員長
会員増強委員長
親睦活動委員長
雑誌委員長
広報委員長
家族委員長

日時 2005年7月24日(日)

場所 ホテル ポートプラザちば

国際ロータリー第2790地区 クラブ奉仕委員会

国際ロータリー第2790地区

会長・情報委員長・会員増強委員長・親睦活動委員長
雑誌委員長・広報委員長・家族委員長

合同セミナープログラム

議題

13:00～ 登録

13:30～15:00 全体会議 司会：情報委員 常泉健一

- | | |
|----------------|---------------|
| 1) 点鐘 | ガバナー 山中義忠 |
| 2) 国歌斉唱 | 家族委員 穴戸久子 |
| 3) ロータリーソング | 家族委員 穴戸久子 |
| 4) 開会挨拶・来賓のご紹介 | クラブ奉仕委員長 大谷眞夫 |
| 5) ガバナー挨拶 | ガバナー 山中義忠 |
| 6) カウンセラー挨拶 | カウンセラー 鈴木雅博 |

基調講演 “今我々が取り組める組織強化”

RIメンバーシップゾーン1コーディネイター・第2530地区パストガバナー

岩崎 稠 先生

13:15～16:15 分科会

- | | | |
|-------------------|-------------|------|
| 1) 会員増強・退会防止委員会 | 栗原委員長 / 2F | ロイヤル |
| 2) 公共イメージ推進・IT委員会 | 金谷委員長 / 2F | パール |
| 3) 家族委員会 | 白須賀委員長 / 2F | ルビー |
| 4) 雑誌・ロータリーの友委員会 | 川島地区委員 / 4F | 房総 |

16:30～17:30 懇親会 司会：情報委員 植草一隆

- | | | |
|---------|----------|------|
| 1) 開会挨拶 | クラブ奉仕委員長 | 大谷眞夫 |
| 2) 乾杯 | ガバナーエレクト | 白鳥政孝 |
| 3) 閉会挨拶 | 地区幹事長 | 浜名賢一 |



開会のご挨拶

クラブ奉仕委員会
大谷 眞夫

本日は ご多用の中 ご参加を頂き ありがとうございます。

関係者一同 心から感謝申し上げます。

本セミナーは 例年期首早々に開催されますが、今年は組織強化が前提となり“公共イメージの推進・IT*会員増強・退会防止*家族*雑誌・ロータリーの友の会” 四委員会の共同セミナーを企画致しました。

本年度は 国際ロータリー会長の カールビルヘルム ステンハマー氏が提案している“超私の奉仕”にもとずいて 幅広い奉仕が求められています。

その為には 各地区のロータリーの組織が まずもって強化され 組織内そして地域・日本・世界への貢献が是非必要であります。

私共は 山中ガバナーの精神を十分に理解した上で 実りのある一年を進めて行きたいと念願するものであります。

クラブ奉仕の活動は ご承知のように ロータリー活動の基本であり 多くの会員の参加を得ております。

少しでも早く開催が求められているのも ご高承の通りであります。

本日は 全体会議として 山中ガバナーから直接皆様へのお話を伺います。

当初の予定では 別の会議が在るとのお話でしたが、それをキャンセルしての出席ですので 是非期待をして頂きたいと思えます。

ついで 鈴木カウンセラーから 今年一年間の我々が取り組むべき課題についてご挨拶を頂きます。

本日の基調講演は 後ほどご紹介致しますが、会員増強の専門家であります

第2530地区パストガバナー 岩崎先生 から 会員増強を主体とする”組織強化論“

のお話を期待致しております。

渡邊パストガバナーと同期ガバナーであると伺っております。

分科会は ご案内の四セクションで 各委員長が主体となり 1年間の進め方を 皆さんと共に 方向付けをお願い致します。

最後に 懇親会を予定していますが、お時間の許される方は 是非ご参加を頂き コミュニケーションを図りたいと存じます。

それでは 本日もご参加を頂きました方々を 私からご紹介を致したいと存じます。

ロータリーの会は紹介が長い・・・との意見もありますが、本日は皆様がたの交流の場でもありますので 少し時間を頂くことを お許し下さい。

ご来賓及び出席地区委員

敬称略

ご出席の地区役員及びご来賓

国際ロータリー第2790地区	ガバナー	山中義忠
R Iメンバーシップゾーン1コーディネーター・第2530地区	パストガバナー	岩崎 稠
カウンセラー	・パストガバナー	鈴木雅博
ロータリーの友委員長・パストガバナー		渡邊 隆
地区研修リーダー・パストガバナー		森島庸吉
パストガバナー		大矢惣一郎
ガバナーエレクト		白鳥政孝
ガバナー補佐	第一分区 関口徳雄	
	第二分区 滝 芳文	
	第三/A分区 布施敬三	
	第三/B分区 山崎邦夫	
	第六分区 宍倉一輔	
	第八分区 香取利夫	
	第九分区 平川 進	
	第十一分区 長谷川禎一	
	第十二分区 岡田庄一郎	
	第十三分区 茂木守之助	

地区役員

第2790地区	幹事長	浜名賢一
クラブ奉仕委員会	委員長	大谷眞夫
情報委員会	委員長	大谷眞夫
	委員	植草一隆
	委員	常泉健一
	委員	畝本一実
公共イメージ推進・IT委員会	委員長	金谷典幸
	委員	田村泰一
会員増強・退会防止委員会	委員長	栗原賢一
	委員	吉田幸男
	委員	久保田倅通

家族委員会
ロータリーの友委員会

委員長
委員
地区委員

白須賀まり子
穴戸久子
川島秀文



御挨拶

ガバナー

山中 義忠

本日は 折角の休日、昨日の強い地震にも拘わらず、クラブ奉仕委員会委員長、委員の皆様には、斯くも多数御出席いただき、只々厚く御礼申し上げます。

更に 基調講演を心良く御快諾頂き、遠路福島から態々お越しを頂きました

第2530地区 パストガバナー 岩崎 稔 先生には当地区を代表して、衷心より御礼と感謝を申し上げます。

何卒 宜しく御指導のほど 願いあげます。

本日のセミナーの企画は まず岩崎先生のお招きから始まり、当地区委員会カウンセラー 鈴木雅博パストガバナーに、多大のなるお教えを頂き これまた深く御礼申し上げます。

そして具体的内容については 大谷眞夫委員長を始めとして、栗原賢一・金谷典幸・白須賀まり子・川島秀文各委員長 そして各委員の皆様 その御努力に深謝するものであります。

クラブ奉仕は、クラブ運営の基盤であり 人 すなわち会員の優良なる資質の導入、育成が全てであります。

本年度R I会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー氏のテーマ”超我の奉仕“ その理念が如何に 人対人の心と ロータリー活動に生かされるか！！これからの学習を期待しております。

簡単では御座いますが、御礼とご挨拶とに させていただきます。

ご静聴 有難うございました。

会員増強拡大に超我の理念を！！

クラブ年間純増 1名 かそれ以上、と言うのが本年度R I会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー氏の必須・必至のお願いであり、それは又 私の必死の目標でもあります。この純増1名とは 会員1～2名の自然減で 2～3名の新人が必要で、更に退会2～3名で 5～6名の増を果たさねば実現しない・・・極めて厳しい数字なのであります。

丁度10年前 私がクラブ会長の時、退会防止をクラブ目標に掲げ頑張りましたが大体上記の計算通りに年間 1名ずつ減少し今日に至っております。

退会の最も多い理由は、ロータリーの定款細則についていけない、つまり守りべき規則が多すぎる・・・というものです。

次がロータリーに 予想していた以上に お金と時間が必要で、それを浪費と認識したから、・・・が挙げられます。

最後に 人間関係で、入会の古い会員が 新しい会員に対して先輩面の優越的態度をとること・・・役員が一般会員に対するも同じ、・・・というものです。

これ等は どんな組織・団体・クラブにも共通の理由かもしれません。

然し ロータリーにあっては、あっては成らない理由だと私は理解しています。

超我は 只人に与えること、即ち 愛、奉仕は只与える行為、超我の奉仕は愛の実践即ち奉仕の理想であります。

ロータリーを愛すること、それはロータリアン相互が与え合うことで 当然なる行為です。

人を愛すること、それが出来ない人は ロータリーに居ることが苦痛になるでしょう。

この超我の奉仕は 馬鹿らしいと思う人は、ロータリーを馬鹿らしいと思うでしょう。

ロータリーに献金出来なくとも 知的貢献・物的貢献・労力支援等が出来れば それは立派なロータリアンです。

超我は 倫理以前のもの それが愛です。人に愛を感じない人、それは入会することを初めから拒否するでしょう。 本当のロータリアンは 今一人の本当のロータリアンを入会させて下さい。

R I会長のいう 一人 とは、そういう一人を言っているもと 私は信じています。

自分が入会させた人が 退会したら、自分自身が 超我の、本当のロータリアンまでには未だ成長していなかった・・・と知りましょう。

そう、ロータリーは 人なのです！！

新年度発進一地区チーム皆様への御

発進とはいえ 有事の本ガバナー新世紀年度をスタートし得たこと、それは地区諮問委員・地区委員会カウンセラー・ガバナーエレクト・ガバナー補佐・地区各委員長・委員そして地区幹事長・地区幹事の皆さま 更に又地区内各クラブ会長・幹事・委員会委員長・委員の皆さまの 超我の御支援・御協力があってこそこの現実と 今改めて厚く御礼申し上げます。

有事とは いまだに停まらぬ会員減少が、世界的経済景気の低迷後退のみならず、現在ロータリーの本質そのものに起因する、との危惧が囁かれていることを指しています。この事は、その囁く人達が挙つて ロータリーからは 最早得るものが無い、金と暇の有り余った年寄りどもが 奉仕という美辞麗句に酔って、金力と権力の自己顕示欲を満足させているのがロータリーの本質実態だとする 誤った認識の現実であります。

ロータリーは 今 、この金力・権力を捨て去らねば成りません。

超我の愛とその奉仕は、いまロータリーが与えるものが、金銭や物質ではなく、正しい知識と技術であること、そして与えられるものの自主自尊の進歩を 共に喜ぶ心がロータリー精神そのものであることを世界に示して呉れましょう。

これからの一年、超我の奉仕・愛と心の奉仕・を共に為すことに ご同意戴き、有事を無事に変える自信を頂いた地区チームの皆さまに、感謝と御礼を もう一度申し述べさせて戴きます。

有難うございました。





御挨拶

カウンセラー・パストガバナー
鈴木 雅博

大谷地区クラブ奉仕委員長さん始め関連委員会の委員長さん 並びに委員の皆様には御多用の中 多数ご参加を戴き、ロータリーの思想を育む大切な役割を担う、クラブ奉仕についてのセミナーを企画開催されます事に 敬意を捧げますと共に、心より御苦勞様と申し上げたいと思います。

又 国際ロータリー第2530地区パストガバナー 岩崎様には、本日のセミナーに当たりましての基調講演をお願い致しましたところ、公私共にご多用の中にもかかわりませず 御快諾下され、遠路 お越しを下されました。

先生のご好意に 心より感謝申し上げる次第で御座います。

先生は、1998～1999年に国際ロータリー第2530地区のガバナーを勤められ卓越した御高見で地区の発展に大きく寄与され、パストガバナーとなられましたからは R I メンバーシップ・ゾーン1・コーディネーターとして ロータリーの発展に力を尽くされて居られます。

今日は、“今我々が取り組める組織強化”と題されましたの御講義を拝聴させて頂ける事となって居り、大変楽しみにさせて戴いて居る処で御座います。

如何か宜しくご指導下されます様 お願い申し上げます。

さて それぞれの委員会に付きましては、各委員長さんから分科会で詳しいお話がありますが、カウンセラーとして簡単に申し上げます。

各クラブが如何に質の良い優れたロータリアンを育てられるかは、各クラブのクラブ奉仕委員会の活躍如何にかかって居るのではないのでしょうか、

今年のテーマは “超私の奉仕” ですが、ロータリーの質の良い奉仕の意識は、ロータリアン一人一人の心が、ロータリーの綱領や 四つのテストに裏打ちされてきて居るかどうかであります。

会員増強・退会防止では、“一業種一人”の原則が破られ安易な制度になって居ますが増強のための効果は顕著には現れて居ない様に思います。

決して増強の努力を蔑ろにして来たのでもなく 努力を怠って居るのではありません。

増強の号令が在っても 現在の状況であるのは、何故でありますか。

公共イメージ推進にもつながりますが、高邁なロータリーの思想を理解し、ロータリアンである誇りを認識し 高邁な思想での社会活動を自信を持って行えば ロータリアンを慕う雰囲気は社会に生まれ、数は自然に増えてくるのではないのでしょうか。

I Tについては 機械の設置、ホームページの開設を促すだけで無く、パソコンに関係の無いロータリアンが多数である事を認識して、クラブ毎にコンピューター入門の為の教室の開設等も視野に入れ、コンピューターアレルギーの解消を考えて上げたら・・・と思います。しかし、ロータリーの上質な思想の育成は、顔と顔・顔から顔へ であり、例会の重要性がそこにあります。

I Tを如何に活かすかは 先ずI T人口の広がりを実現するのではないのでしょうか。

家族委員会は 最近になりR Iが提唱して始まった委員会がロータリーの賛同者を増し会員増強に繋げようとする意図であろうかと思えます。

当地区では“婦人の集い”が、1983～1984年度、小原ガバナーによって提唱されロータリアンの奥様方への感謝の意味で始められ、今では家族委員会として活動の意味を拡大し活躍して居ます。

年一度のロータリー家族の会の開催に当たっては参加者の募集の面で 委員会が大変苦勞されています。

各クラブのクラブ奉仕委員会からの強力な応援が待たれる処であります。

雑誌・ロータリーの友については、折角の情報源であり特に縦組の記事には 人の心の琴線を揺さぶり、ロータリーの思想の本質を語る記事も多くあります。

会員皆さんへの紹介を お願いしたいと思えます。

始めに申しました通り、ロータリーの上質な思想を育てる揺り籠とも云うべき役割がクラブ奉仕部門であります。

十分にご活躍によって 皆様のクラブが 益々活性化し会員皆様が 更に素晴らしいロータリアンとなって下さる事をお願いし、カウンセラーとしての挨拶と致します。

基調講演

“我々が今取り組める組織強化”



R I メンバーシップゾーン1 コーディネーター
第2530地区パストガバナー
岩崎 稠 先生

1905年2月23日に誕生したロータリーは、燎原の火の如く自由を標榜する国々に、またたく間に広まり 一世紀を経過したわけであります。

まさしくロータリーは、自然界における引力のごとく、人間界において存在理由をもつ理念であると解釈して間違いないと考える次第であります。

カール・ウイヘルム・ステンハマー R I 会長は、私たちはすべてに完璧なテーマー “超我の奉仕” (Service Above Self) を持っているではありませんか、

これが私たちの今年度のテーマーであります、と断言いたしました。このテーマーはロータリーの原点への回帰でもある、と解釈いたしました。

“ロータリーは一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と、義務およびこれに伴う他人のために奉仕をしたいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—[超我の奉仕の哲学である]”と”社会奉仕に関する1923年の声明 “の第一パラグラフに記載されています。

人が生きることで重要な “利己と利他との調和” を表現しております。

1911年の国際大会において、アメリカ・ミネソタ州 RC のフランク・コリンズ会長が “Service、not Self “という言葉を表現したことに対して、ポール・ハリスは” Utopian、yes。But that ‘s Rotary. “と述べたといわれております。 ”理想主義者、いいではないか。それがロータリーなのだ “

ロータリーの原点への回帰は、ここ数代の R I 会長が強調していることでもあります。

歴史は 紐解くことから 始めてみましょう。

手続要覧の会員増強 Membership Development の項には” ロータ

リーの目的の本質、それは個人による奉仕の理想を実践するという責任の受託にある“とし、またロータリー・クラブにおいて”奉仕の理論が職業および人生における成功と幸福の真の基礎であることを団体で学ぶこと“とあります。

ポール・ハリス著”ロータリーの理想と友愛“によると、”ロータリー“の名の由来についてふれ、会員は相互の職業生活を見聞しようとの趣旨から、其のいずれかの事務所において会合を催すことにした。かくて各人の事務所を循環的に会場にあてたことが”ロータリー“（巡回）なる会名を採用するに至った主な理由であったと述べ、職業奉仕はロータリー独自の実践活動であるとしています。そういう点からも会員増強の基本には 職業分類は忘れてはならないことでしょう。現在の社会構造からみれば、職業を離れて各個人の存在は考えられません。生計を立てる為に励んでいる職業は個々人の為に行っているばかり出なく、社会全体の中で必要がある故に存在していることを忘れてはならない、全ての職業の向上を凶ることを考えねばなりません。職種全体の向上により、地域が、国が、地球レベル全体が向上することをロータリーは目的としていると考えてもオーバーではないと考える次第であります。

会員増強の議論は、職業分類を抜きにして、“数”だけで論じられているようだ、会員数を増やすことがロータリーの発展につながるのだ・・・と言う論調が、何の反省も無く、何らの科学的根拠もなくして世間に横行している。

ロータリーにおける会員増強は、科学的に準備された職業分類を基盤としていることに、会員がもう一度着目せねばなるまいと思うのである、と憂える方もいることを忘れてはならないと考えます。科学的な職業分類の考え方を拠として、其の地域にある出来るだけ多くの、それぞれ異なる職業を調査し、其れによって職業分類表を作成し、未充填部分を埋める人物を探してクラブ会員を構成していく、それが会員増強である、それが時代が変わろうと基本であると考えます。

ロータリーの第一標語である“超我の奉仕”が定義されている 決議23-34にふれさせて頂きます。ロータリーモザイクより引用させて頂きます。

1936～37年度 RI会長になるのですが、ウイル・R・メーニアー・ジュニアがセントルイス大会の決議委員長であった際、昼夜を分かたず取り組み書き上げたといわれるのが決議23-34であります。ハロルド・トーマは以下のように述べておられます。

“決議23-34が書き下ろされて以来、既に50年間にわたって、全世界における実際上の経験に基づく討議・討論がおこなわれた。しかしながら、原理という観点からするロータリーの説明として、この決議の第一パラグラフをこれ以上よく表現することは恐らく我々の中 誰一人として出来る者はあるまいと思う”と書かれてあります。

この“第一パラグラフ”は“・・・この哲学は奉仕即ち「超我の奉仕」の哲学であり、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践倫理の原理に基づいている。”

ステンハマRI会長のモットーとするところであります。

第四および第五パラグラフについても、これ以上の表現は不可能であり書き改めることは同様に困難であるとしています。

第四は”単なる心の持ち方だけでなく・・・奉仕するものは活動しなければならない“また”この活動は地域社会が事実必要とすることに基づくものとしてクラブ全会員の集団的協力を要請すべきである“とあります。

第五は”個々のロータリー・クラブは、クラブにとって魅力のある、またその所属地域にも適した社会奉仕活動を選ぶに当たって、絶対的な自主権を有している。然し如何なるクラブも、ロータリーの綱領を不明瞭にしたり、ロータリークラブが組織されている本来の目的を危うくするような社会奉仕活動を行ってはならない。・・・特定のクラブに対し特定の社会奉仕活動を命令したり禁止したりすることは絶対にしてはならない“とあります。このような努力によりロータリーはどのように評価されたのでしょうか。

ロータリーは地域社会生活において健全な影響力を持つものとして次第に世に認められるようになりつつありました。地域社会にロータリークラブが出来ると、其の地域社会はロータリアンの活動のおかげで以前よりも住み良い所になると言うことが既に言われていた。ハーディング大統領はセントルイス大会のスピーチでこの点を明らかにしたのであります。又次のように続きます。

この1923年の大会プログラムは二つのテーマを中心として編成されていた。

一つはビジネスの方法であり、他は青少年奉仕である。ビジネスの方法では、来るべき年度のプログラムを策定するに当たっては、模範的慣行の道徳律の前端的採用を基本要件とすべきことを決議しています。少年奉仕委員会は、少年が将来ロータリーの倫理と原理をその生涯の成功の基礎と心得るビジネスマンになるようにこれを育て上げるようなプログラムのためにもっぱらその精力と努力を傾倒しなければならないことを決議しています。

職業と青少年奉仕に着目していることに敬意を表する次第であります。1923年という年は記憶に残しておくべきことは、また、決議の中で“より良きビジネスマン、より良き市民“とあるのを”シチズンシップ“(訳者注=”市民道”とでも訳すべきか；とあります)に改めていることは注目すべきことで、“会員増強“の訳語は M e m b e r s h i p D e v e r o p m e n t であることから “会員道増強“が本来の目的と考えても、当たらずとも遠からずと考えてますが如何でしょうか。

1923年で忘れてならないことがもう一つあります。

ロータリーが1923年に成人に達した分野が、もう一つあると“モサイク”に記載されております。国際大会が国際協調を呼びかけてから3ヶ月も経たないうちに、東京と横浜の両市が地震と火災のため荒廃に帰した。公式記録からの抜粋であります。

“日本の大地震(9月1日)がもたらした火災が鎮火しないうちに、数千ドルに上る義損金が全世界各地のクラブから、東京ロータリークラブに流れ込み始めた—そして特別救済資金

を調達した国際ロータリーからも。

東京ロータリーは良識を持ってこれらの義損金を分配した。入院患者達のために市内の各病院に、東京と横浜の小・中学校に、東京孤児院の構内に家を失った孤児のために二階建ての「ロータリー・ホーム」を建設するために“ロータリーの酵母は地域社会の中で、国家の中で、そして全世界の国家群の中で作用していたのである、との記載があります。ロータリーの揺籃期に遡ってみたいと思います。

親睦と Backscratcher で始まった Rotary は、ドナルド・カーターの入会拒否にあいポール・ハリスは“このロータリー・クラブの親睦によって得られた諸々の結果を挙げて世のため、人のために”となるわけであります。対社会的意義の自覚に目めざめるのであります。3代、4代と2期の会長を務めたポール・ハリスは、対社会的意義を例会で機会があることに執拗に説きます。反発も大変なものであったようです。2期目の途中で会長を辞します。いわゆる神経症状にポールはなつたのであります。この1908年には、ロータリーにとって忘れることが出来ない貴重な人物が2人入会します。革新家と言われるアーサー・フレデリック・シェルドンと管理者として後にまで名をとどろかすチェスリー・R・ペリーであります。感情的にもなりかけていたポールにチェスリー・ペリーから貴重なアドバイスがなされたという物語があったようです。“寛容”という言葉の誕生であります。

“もし私たちのこのロータリーは、つかの間の存在以上のものたるべく運命づけられているとすれば、それは皆さん方そして私たちがお互いの欠点を我慢しあう、すなわち「寛容」の価値の何たるかを学び知ったからであると言えましょう”とポール・ハリスの巻頭の言葉で始まる”The National Rotarian”の創刊となります。1911年1月のことであります。

その後、名称は変更され”The Rotarian”となり現在に続き”ロータリーの友”はその地域紙であります。

ここで“寛容”がロータリーに慣用語として加わったと考えます。ここでポール・ハリスは会員を三つの種類のいずれかに はまるのではないかと結論づけます。

- 1) ロータリーに商売を持ち込んではいないと主張する A氏と同じ考えの人
- 2) 商売こそロータリーの全てであると信ずる C氏と同意見の人
- 3) ロータリーとは、公共的活動および親睦を、商売と合理的に混ぜ合わせたものであるとする D氏と同じ考えの人

会員増強を日本語で考えると“増”は量の問題であり“強”は質を意味すると受け止めてられますが、Membership Development の日本語訳からすると会員道増強 となり“利己と利他の調和”を目標とし限りなく利他を目指すことにより利己を計ると考えて、”他“を満足させることにより自己の満足を得ると考えるのが充満としたいと考えます。それが Service Above Self でありましょう。

1912年にロータリークラブ国際連合に名称の変更がありますが、地区大会や国際大会

は”個人参加“の言葉がぴったりであったようであります。

この人達は、理想としてのロータリーと実際活動の計画を持つ組織としてのロータリーとの間に調和点を見出そうとしていたことは事実のようであると 史実にあります。

創設の当初からロータリアン達を2分していたこれらの根本問題は十分に討議された。即ち重要なのはあり方にあるのか、それとも行動にあるのか、行動は個人によるべきかそれとも団体として行うべきか・そしてもしそうならどの程度まで、どのようにしてか、社会奉仕と職業奉仕といずれを優先すべきか、それともどちらか一つがそれだけで充分なのか、中央組織体との関係において各クラブは完全自治を認められるべきか それとも部分的自治しか与えられるべきではないのか、等々の根本問題の論議でロータリーの分裂が懸念される程であったことを史実が物語っています。

結論を出すのが1923年になることは先ほどお話しした通りであります。

最後に1923年に至るまでの3名のRI会長のロータリーに対する意向にふれ、まとめとします。

ポール・ハリスは“私はロータリーの基本的目的はビジネスであると考え。公民としての、或いは慈善的活動も決して阻止すべきではない、しかし第二義的考慮を払わなければならない。其れは重要性を認めないからではなく、これらの必要性を充たすための特別の組織が別にあるからである。”

フランク・マルホランド（第4代会長）は“私は、政治学の範疇に属するものを除きロータリーはあらゆる市民の問題に関心を持つべきだと確信する。

ロータリーの目的は各個人の中に 奉仕する能力を発達させるにある。しかし、クラブの功績に帰すべき素晴らしい活動もある。私は、この両面から奉仕に参加する機会をロータリーのために保存する必要があると思う。”

レスリー・ピジョン（第7代会長）は”ロータリーの第一の目標は、各個人を其の日々の仕事に適切に関連させるにある。これがロータリーとして何よりも まず遂行しなければならない義務である。ロータリークラブは其の会員をしてそれぞれの日々の仕事にサービスの理念を体得するように教育しなければならないと共に、他方においては組織としてのロータリークラブの力を強めるために それとは違う異質のサービスが必要だということを見逃してはならない。

“皆さんは、キップリングの”「ジャングルの法則」“の中で、このことを実に美しく表現しているのをご記憶であろう。即ち“群れの力は狼である、そして狼の力は群れである”と。

“レスリー・ピジョンのスピーチを聴いていた人達の中には、これが、それから半世紀の後にならぬ一般に国際ロータリーの基礎と考えられるようになった事柄を予言する結果と成ろうと予知した人は、恐らく誰一人としてなかったであろう”とハロルド・トーマスは語っています。

ご清聴 ありがとうございます。

分科会（会員増強・退会防止委員会）



会員増強・退会防止委員会

委員長 栗原 賢一

会員増強・退会防止についてのセミナーを開催致した処、約100名以上の参加者があり盛大な会議となりました。

矢張り、各クラブの関心は、増強しなければならない！ の理由は クラブの存在に関する事です。

最盛期の10～20%の会員数の減少については、予算が成り立たない・・・と言う事で、奉仕活動に廻す資金が無くなってしまいます。

すでに、当地区では 今年度のクラブが無くなるかもしれない・・・との噂がありひとごとではないと感じているクラブもあり、入会してもらっても、すぐに辞めてしまう会員もあり なかなか純増に繋がりません。

ロータリーの理念を、高く揚げても増強にはなりません！！

勿論 ロータリークラブが 何をやっているのかを知らせしめても・・・その事に感動して入会してくれる人は 少ないのです。

クラブが楽しい事が 大切です。 問題は どうすれば入会してくれるかと言うことです。

又 一度入会させた人は 辞めさせないような努めが必要です。

クラブの大きさが 全て ではありません ！

クラブは その規模に合う活動をすれば 良いのです。

世界で一番少ないクラブは 2名です。 それでも成立しているわけです。

実際には 何の活動も出来ませんが、二人で増強に努めている事と思います。

もし 今私がロータリークラブに入会していなければ こんな楽しい人生は送れなかったと思うし、退屈な友人もいない寂しい人生だった・・・と思います。

この楽しい人生を 多くの若い後輩に教えて上げたいと思います。

ロータリーを理解して、奉仕活動に打ち込む事ができれば、必ず幸せな人生を送る事が

出来ると信じます。

それには 先ず 参加をすることです。

食券を買って 食事をしないと言う事は辞めて 例会に出席する事です。

友人を増やして下さい。

それでこそ ロータリーです。

本分科会は 栗原委員長の発言の後、各地区クラブ からの会員増強状況について 市原RC 加藤利夫・千葉緑RC 郭福男・松戸西RC 小菅寿和各会長 の報告 地区委員 吉田幸男・久保田俣通の見解発表があり、議論の内容としては成果を得たものと考えられます。

最後には 山中ガバナーの総括もあり会員増強・退会防止分科会としての締めくくりを得たものと考えます。



分科会（ 公共イメージ推進・I T委員会 ）



公共イメージ推進・I T委員会
委員長 金谷 典幸



委員 田村 泰一

皆さんこんにちは。この暑い中お集まりいただき、ご苦労様です。私は今年度公共イメージ推進・I T委員会の千葉南ロータリークラブの金谷です。

まず公共イメージ推進について少しお話をいたします。この耳慣れない言葉は、今年度国際ロータリーのステンハマー会長が立ち上げた三つのタスクフォースの1つで、その根底にある考えは「継続性」です。一つ目は、マジアベ元R I会長の強調事項の一つである「識字と教育」このプログラムを継続。次にグレン・エステス前R I会長の「水保全」という強調事項の継続です。

前の年度はロータリー100周年の祝賀の年度でありました。多分私たちは、過去に例を見ないほど一般の人々の目にロータリーのことを留まったと思います。今年度はこのような広報効果をより一層充実し、ロータリーを理解してもらう絶好の機会です。この機会を捉え「公共イメージ支援グループ」を任命し、公共イメージを高める継続的活動の土台としてクラブがこれを利用することができるようにする。こうして「公共イメージ推進グループ」が立ち上がったのです。（ステンハマーR I会長の国際協議会の演説より）

今年度山中ガバナーの地区テーマ、運営目標に、地区テーマは「人命の保全」 地区運営

目標は 3C Calm (静穏) Clear (清明) Clever (賢明)

地区クラブ奉仕委員会に与えられた課題は、

- 3C の運営
- ロータリー「公共イメージ推進」
- R J W (ロータリー・ジャパン・ウェブ) との緊密連携
- ガバナー月信の I T 化

殆どが「公共イメージ推進・I T 委員会」に課せられた課題のように思えます。

今日は「公共イメージ推進」・I Tといたしますと非常に多岐にわたった内容になると思いますが、2 つに絞ってお話をいたします。

その一つは、「公共イメージ推進」の重要性 (一人一人がイメージ推進に寄与する) と「ウェブサイトを用いた効果的な広報」

其々の国の文化に相違があるように、広報の方法も異なります。しかしロータリーは一般社会の人たちと意思の疎通を図り、伝えたいメッセージを書き、それを伝える適切な方法を見出し、それに向けて努力することが、活動する広報です。

山中ガバナーも「公共イメージ推進」が会員増強の切り札と言われているように、一般社会がロータリーの活動、業績を知っていれば、協力・支援が得られやすくなり、それによりあなたたちはロータリーのイメージ推進に寄与したことになります。

世界・アメリカ・日本・第 2790 地区、ロータリアンのここ 10 年間の会員の推移を見ても、世界では、ヨーロッパの頑張りでも 0.4% 増がありますが、アメリカは、0.4% 減、日本は 20% 減、第 2790 地区は 27% 減です。

ここ数年、ロータリアンの家族についてかなり語られるようになりました。その影響もあり、女性会員の増強が目立っています。資料は 7 年間のものですが、世界は 1998 年女性会員が 6.5% であったものが、2005 年には 12.7% に増えています (約 2 倍)。アメリカは同じ年度で、14.2% が 2005 年には 21.2% と (5 人に一人が女性) 増えています。日本は 0.6% が 2005 年には 3.1% 増です。(100 人に 3 人です) 千葉は 2005 年 117 名という (3.6%) 資料しか手に入らなかったのですが、確実に女性会員は増えています。

かように考えてみますと、家族に理解していただき、また一般社会にもイメージの向上を図ることにより、ロータリーの会員増強につながることです。

「ウェブサイトを用いた効果的な広報」

ロータリーのように非営利団体の広報は、限られた予算をいかに効果的に使って広報するかにかかっています。ウェブサイトこそ、廉価の広報手段の宝庫といえるでしょう。最近、ニュースのネタをウェブサイトにも求めるジャーナリストや、Eメールですぐに連絡のとれるジャーナリストが増えているようです。クラブのホームページ、地区のホームページ等を利用して挑戦してみてください。

その前に、何よりも刺激になるのは、ほかの素晴らしいロータリサイトを訪れてみることです。勉強になるサイトも有り、応用できる戦略もきっと有るでしょう。

次にウェブサイトで会員の入会勧誘・退会防止の方法を考えて見ます。

ウェブサイトを設置して、プログラムの情報や会員のEメールアドレスを掲載することは、現会員の退会防止に大きな効果があります。今後の会合の予定を掲載すると、皆に情報が伝わります。

会員が互いに交流する方法を提供すること、例えばユーザーがロータリーの広い話題についてメッセージの交換ができる掲示板型のウェブページを作成する。また非常に面白い方法として、リアルタイムのチャット・イベントです。(こうしたソフトがあるクラブもあります。)

ウェブサイトは殆ど全ての題材について情報収集の優れた手段であるだけでなく、個人に新しいコミュニケーション手段を提供します。インターネットの技術は、メーリングリスト、R Iからのニュース類、掲示板、チャットルーム、会員間のコミュニケーション手段を提供しています。

その他に新会員用に、やさしい教育的プログラム、現会員用の教育的プログラム等を掲載し、ロータリーを充分知ることによりロータリーを好きになるでしょう。

(今日は個人情報保護については触れていませんが、このことも非常に大切なことなので、またの機会にお話をしたいと思います。)



分科会（家族委員会）



家族委員会

委員長

白須賀まり子

御挨拶

カウンセラー

鈴木 雅博

お疲れのところ 引き続きの分科会へのご参加、真に御苦労様です。

当地区では、1983～1984年・小原ガバナーが提唱して、ロータリアンの活躍は
それを支えるロータリアン夫人の陰の力に在るとして、奥様方への感謝の気持ちを形に
現そうと“夫人の集い”として 他に類を見ない、当地区独自のプログラムが始められま
した。

ロータリーの会員資格が ”成人男子“とされて居り 女性は会員資格が無く、ロータ
リー誕生以来 女性の入会は認められて居ませんでしたが、米国の某ロータリーク
ラブへの入会を求める女性の要求が法廷闘争まで持ち込まれ、裁判の結果 原告の要求が
認められる事となり “成人男子”の制限が取り払われる事となった頃の事です。

女性会員の入会が可能となり、当地区でも女性会員が増え、男性会員の伴侶の為に
”夫人の会“が在るならば ”女性ロータリアンの伴侶が無ければ不公平ではないか“
と言う意見等も聞かれるようになり、ならば 各々の伴侶の会を独立して開催するよりも
ロータリアン夫人に併せての会にしようと、言わば 女性への奉仕のために
”ロータリー女性の集い“へと発展してまいりました。

国際ロータリーが 家族委員会の設置を求めて来たのは 3年前の年度からだったと思
います。 会員の減少状態が解消せず、ロータリーの勢いが停滞から衰退へと進んでしま
うのかと恐れ、ロータリーの知名度を上げ、挽回を計ろうと思いついたのが この方法
でありましょう。

ロータリーとロータリアン、其の所に関係する人たち全てをロータリーの家族と考え
ロータリーの理解者を増やし ロータリーの思想の認知を図り 知名度を上げて会員増強

の後押しにしようとして居るのであります。

ロータリーの活力は数が揃えば可能であるのでは無く、ロータリアン個々の意識に基づくものではありませんでしょうか。

ロータリーは会員の意思・クラブの意思が尊重されなければなりません。

大切なのは 個々のロータリアンの意識であり、其の意識を高い位置に引き上げる働きをする為のクラブの雰囲気でありますし、個々のロータリアンの日常を支える奥様 或は御主人様ご家族の皆様始め 事業活動や地域活動で関わりを持つ全ての方々の影響が大であります。

ロータリアンの持つ、このような様々な人間関係を円滑にし 上質な意識を涵養して行く為に必要かかす事の出来ない要素として挙げられるのが“親睦”であります。当地区が”夫人の集い“を始めた経緯は ロータリアンを支える奥様方への感謝の気持ちからであったと申しましたが、現在 家族会員となったと言っても、基本の意識はそのまま変わる事無く、個々のロータリアンの周囲への感謝の気持ちを現す為のプログラムであると考えて下されば良いのではありませんか。

他地区に魁け”夫人の会“として始まった当地区の此のプログラムは、ご承知の通り年度の一度、奥様やご家族の参加を戴いて感謝の親睦会を開催しています。

限られた条件の中で、地区委員の皆さんが工夫を凝らし 少しでも楽しく有意義な集いとする為の努力をして居られます。

クラブの担当委員の皆様には、地区委員会からの地区家族会への参加者募集の案内が届きましたら、快くご協力下さり 参加者の勧誘をし派遣をして下さいます様お願い致します。

例年の地区委員会の一歩の御苦勞が、参加者の確定に有る様でございます。是非今日此処に御出席戴いて居られます皆様方の強力な御支援をお願いする次第であります。地区組織におきましては 家族委員会を設けてありますが、クラブによっては 改めて”家族委員会“としての組織をされていない場合も御座いまいしょうが、其の場合は親睦委員会で家族委員と言う要素を含めたご活躍を下さる様にして戴ければ良いと思えます。私達は家族始め事業活動や我々の日常生活に関係する周囲への感謝の気持ちを告げる事により、理解を得、協力を戴いて、更に新たに、上質な思想に基づいた本当の意味でのロータリーの奉仕に繋げ、ロータリーの活力を増進する事が出来る様にして行きたいと思えます。

先ず 此処に居られる皆様お一人お一人から、ご家族の方々、事業所に働く方々、地域の方々、クラブ会員の皆様へ、素直な感謝の気持ちを伝えて戴く事が ロータリーの奉仕の出発点であります。

家族委員会に求められる処の役目を果たす事が出来、ロータリーの活力を復活し、地区委員会の主催する”家族の集い“も大きな成果を挙げられるものと考えて居ります。皆様のご理解とご協力を 心よりお願いしてカウンセラーの話と致します。



ご挨拶

家族委員会
委員長
白須賀まり子

今年度 家族委員会委員長にご指名頂きました流山中央ロータリーの白須賀まり子でございます。

国際ロータリー第2790地区の初めての 女性の委員長とのことで大変 緊張しておりますし 光栄と感じております。

また ロータリークラブにおきまして、女性会員は入会無し・・と言うクラブもあるようですが、女性に対しての意識を良い方向に変えて頂けるように 私なりに、しっかりと努力をしてまいりたいと思います。

皆様のご協力 宜しくお願い致します。

社会の中で、家族とは一番小さな基本となる単位であります。

一つ一つの家族が積み重なり、大きな社会となり、現在は 少子化・高齢化そして核家族が進み 昔の大家族は少なくなりました。

其れだからこそ 現代社会の中で、しっかりとした絆を作り上げて 行かなくては ならないと思います。

では、ロータリークラブの家族は、家族委員会とは どんなものなのでしょう。 まだ2年目の家族委員会に於いて知らない方も多いのではないかと思います。

2003年度ロータリー家族を唱えた ジョナサンB・マジアベ RI会長は、ロータリークラブ会員とロータリアン以外の人々を支援するクラブプロジェクト及びその活動を援助する為に、ロータリー家族委員会を各クラブに設置する事を奨励致しました。

其れを受けて 国際ロータリー第2790地区と致しましては、夫人の集いに

始まり女性の集いの小委員会が、当地区に於いて22年間活動しておりました。此の活動は日本国内外においても、独自のすばらしい存在です。

この女性の集いの小委員会が、名前を変えて、家族委員会へと移行されました。ロータリー家族とは、新しい概念であり、その家族を保護し、其の安全を守り悩み苦しみを分かち合い、そして交わるものである・・と定義されています。家族の構成員とは、現ロータリアン・元ロータリアン・ロータリアンの配偶者及びその家族となります。

これらの家族を、クラブの行事にお誘いし、ロータリー活動を推進して頂き此の家族を強化する事により、世界の平和への道に貢献するものです。

私も物故会員の配偶者の立場でありました。以前は、ロータリークラブの家族旅行やクリスマス会におきまして妻として参加させて頂いておりました。ですからロータリークラブの事はおぼろげながらわかっておりましたし、ロータリークラブに好意を持っておりました。

主人が亡くなってから3年後の、知人のロータリアンに勧められて流山中央ロータリークラブに入会致しました。

入会しまして一度にたくさんの友達が増えて、良かったと思っております。このように家族を含めたロータリークラブと言うのは前々から行われています。しかしクラブによっては、ほとんど家族交流が無いクラブもあります。各クラブで改めて家族の認識を高めて頂くために家族委員会は進めて生きたいと思えます。

又家族委員会と致しましては、3月24日(日)に、第一回“ロータリー家族の集い”をホテルマンハッタンで開催し170名の多くのご参加を頂き盛況に終了致しました。

私も前年度委員長 卯田委員長のもと、総合司会をさせて頂きましたが、皆様に喜んで頂き親睦を円る事が出来たと思っております。

44クラブの方がご参加して頂きましたが、第2790地区は85クラブありますが残念ながら41クラブではご参加頂けませんでした。

今年度も平成18年の2月～3月頃には、第2回の”家族の集い”を催したいと考えていますが、全クラブからのご参加をお願いいたしたいと思っております。

私達委員会一同、会員の皆様、ご家族の皆様が“参加してよかった”と言って頂けるよう一層努力して、企画してまいりたいと思っております。

家族委員会委員長として、発足して2年の此の委員会の大切な火を灯し続けたいとおもいます。

分科会（ロータリーの友委員会）



ロータリーの友地区委員
川島 秀文



御挨拶

パストガバナー

渡邊 隆

ロータリーの友委員会は 委員長 1名・副委員長 1名・顧問 4名・常任委員（編集） 2名・地区委員 34地区各1名・ロータリーの友事務所所長1名・編集長1名
その他職員8名で構成されています。

地区委員は ガバナーの代理として 其の任を任されています。

地区委員の役目として ガバナーの意向を委員会に伝えることで 年3回集まっています。

ロータリーの友は 1955年に R・Iより認証を受け公式の雑誌となりました。

”ロータリーの友“創刊号や R・Iの”ザ・ロータリアン“を今日ここに持ってきましたが いまでは皆様の目に触れることも滅多にありませんので 復刻して配布できないものか・・・今検討しているところです。

今 抱えている課題の一つは 横組みのページをもっと読みやすくすることです。

指定記事は R・Iから原稿が送られてくるのが発行スケジュールぎりぎりなので
ですから時間的に手を入れる時間が無く、そのまま掲載するしかないのが現状です。

この問題を 何とか解決したいと思っています。

ご説明

地区委員

川島 秀文

1. 地区委員としての任務と役割

1-1) 地区委員はガバナーに任命されガバナー代理として努める。

本来はガバナーが直接ロータリーの友に携わり、意見を述べたり編集に参加したりするのが多忙の為、ガバナーの代わりとして、ガバナーの意向を良く聞いて委員会に伝えること。

1-2) ロータリーの友の購読の啓発

公式雑誌としてロータリーについて学ぶ為のテキストで 我々に購読が

義務付けられた教科書の性格を持つものだと言えるでしょう。
そのためには 各クラブの雑誌委員長さん達が会員に ロータリーの友誌の良いところを説明し 是非読んで頂けるよう働きかけて下さい。
タテ組みとヨコ組みがありますが、ヨコ組みはR・I関係の記事の為直訳ですので良く理解が出来ず、読みたくなくなってしまうようです。
先に タテ組みから読みやすい・・・との意見もあるようですので試してはいかがでしょうか？
タテ書きシリーズ風紋（その人其の人生）スピーチ、一ページ目は大変良い記事が掲載されていますので、読まないに損ですよ。
会社等の朝礼などに話してあげては 如何ですか。
又 これだけ内容の濃い雑誌が 一部 210円 で買えるのもロータリアンの特権です。

1-3) 地区便りの編集をする

第2790地区は2006年1月号に掲載されます。1地区2ページで原稿締め切りは11月10日です。

皆様の地区での原稿をお待ちしております。

同時掲載：ガバナー わが地区白慢

1-4 投票をお待ちしています

卓話の泉・ロータリアットワーク・わたしの宝物・私の一字・内外よろず案内・掲示板・俳壇・歌壇・等々ロータリー友誌に掲載してもらえ欄がありますので、是非投稿をお願い致します・

懇親会



ガバナーエレクト白鳥政孝

地区幹事長 浜名賢一



後書き

経費削減をかねて、原稿作成は皆様のご協力を得て、白前で行いました。

字態のやり繰り・写真の掲載等問題もありますが、ロータリーの精神でご容赦頂ければ幸いです。

クラブ奉仕委員長
大谷 眞夫



RID2790

国際ロータリー第 2790 地区
クラブ奉仕委員会